

b. 回収実績

調査毎の回収実績を図 3.2-2～図 3.2-6、表 3.2-3 に示す。

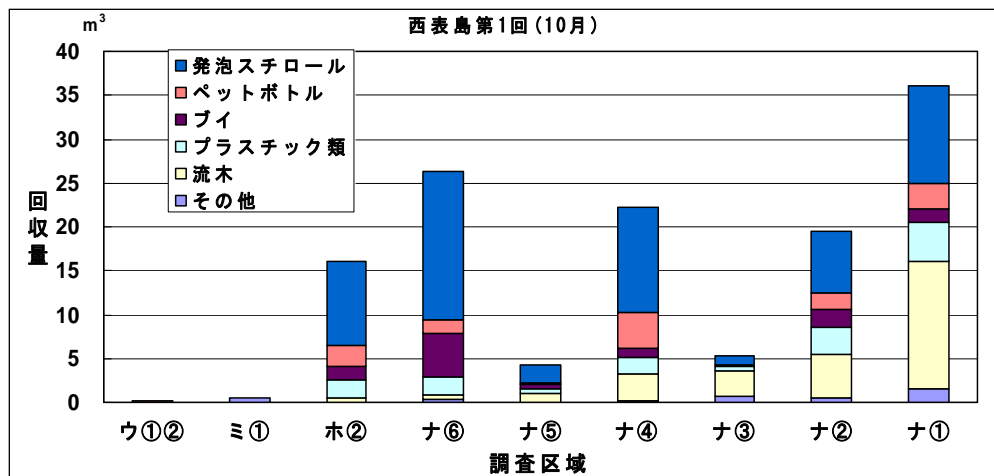


図 3.2-2 第1回調査(2007年10月)の回収実績

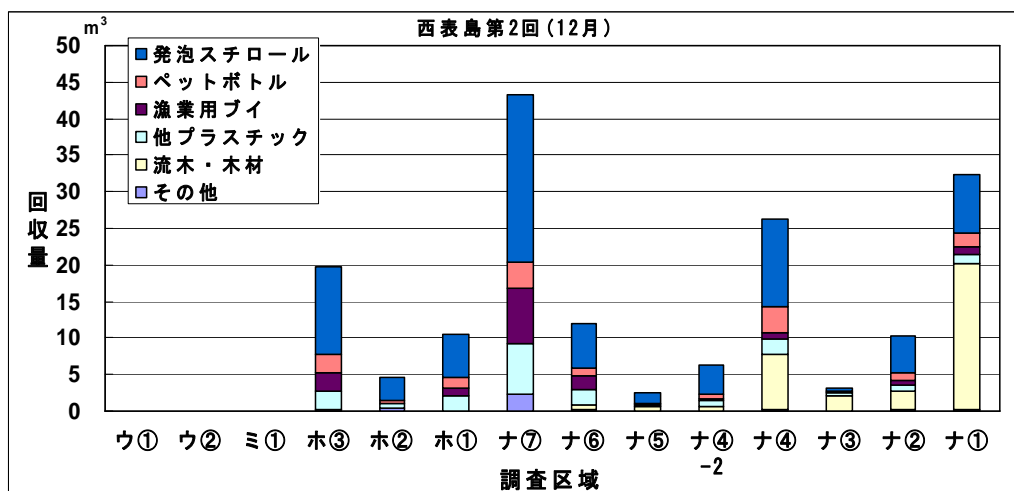


図 3.2-3 第2回調査(2007年12月)の回収実績

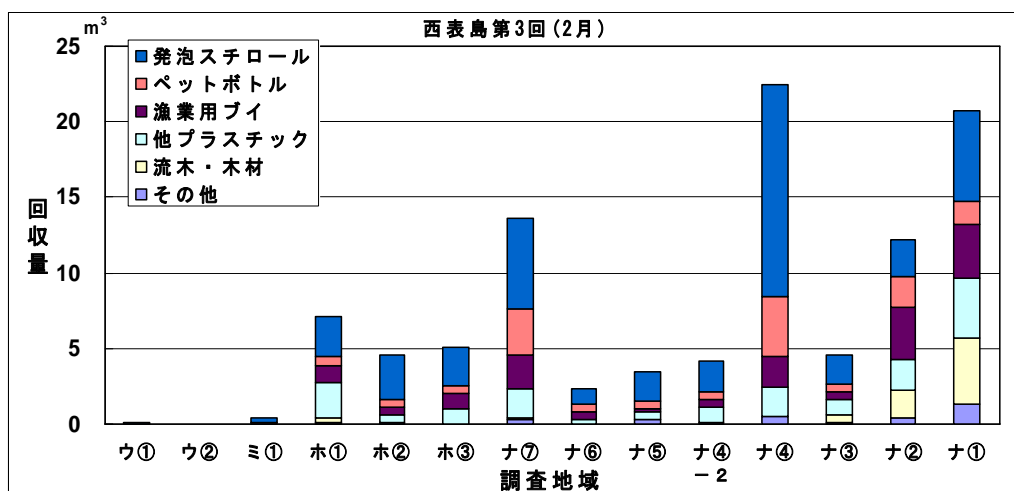


図 3.2-4 第3回調査(2008年2月)の回収実績

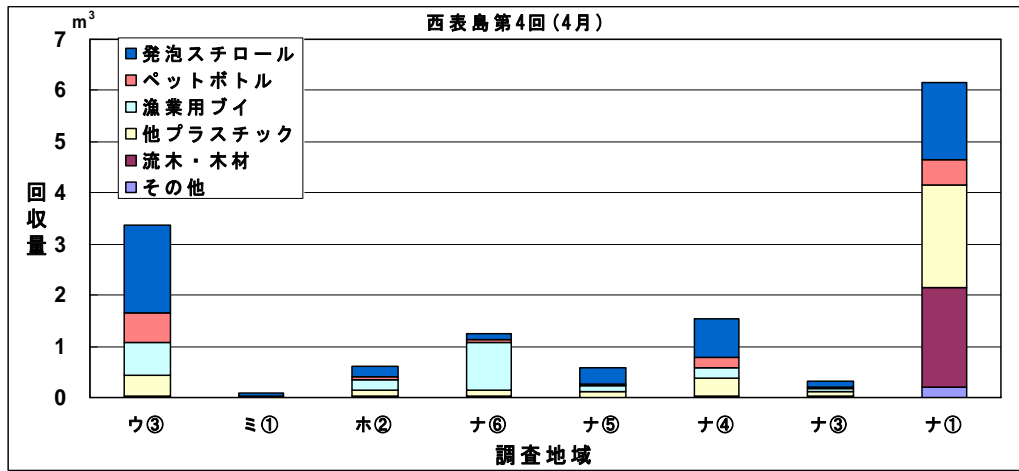


図 3.2-5 第4回調査(2008年4月)の回収実績

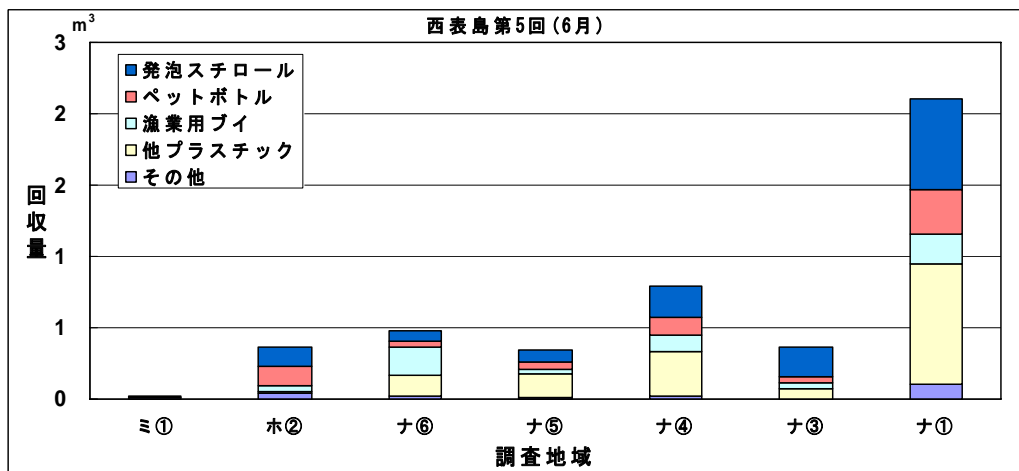


図 3.2-6 第5回調査(2008年6月)の回収実績

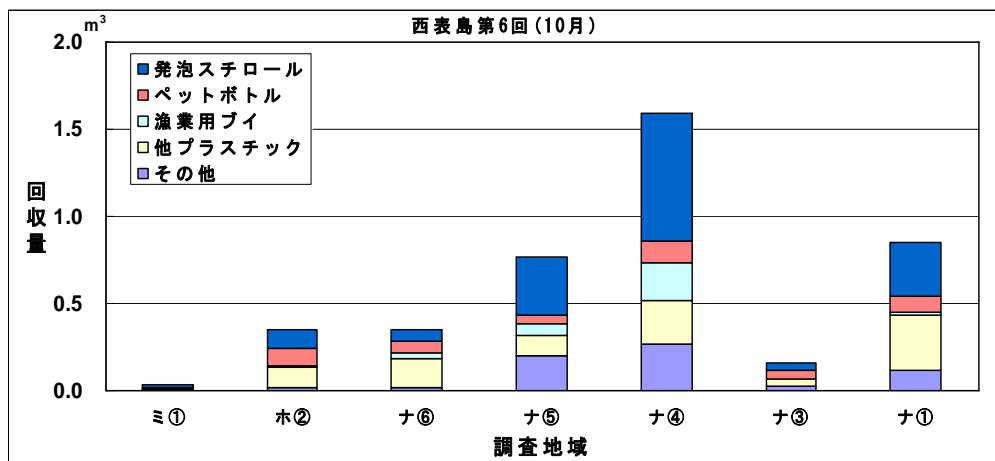


図 3.2-7 第6回調査(2008年10月)の回収実績

表 3.2-3 医療系廃棄物の回収実績

調査回	注射器(数)	バイアル(数)	アンプル(数)	重量の合計(g)
1-2	-	-	-	5,000
3	6	6	2	337
4	2	2	0	253
5	6	7	0	425
6	0	2	0	114

c. 回収結果の比較

第2回(12月)～第5回(6月)独自調査において、各回共通して漂着ゴミの回収を行った区域(共通調査枠の周囲等)の種類別・海岸100mあたり回収容量を整理した。ここでは、毎調査回全て容量5%以上を占めた人工系のゴミを対象とした。対象区域を図3.2-8に、回収結果の比較を図3.2-9～図3.2-13に示す。

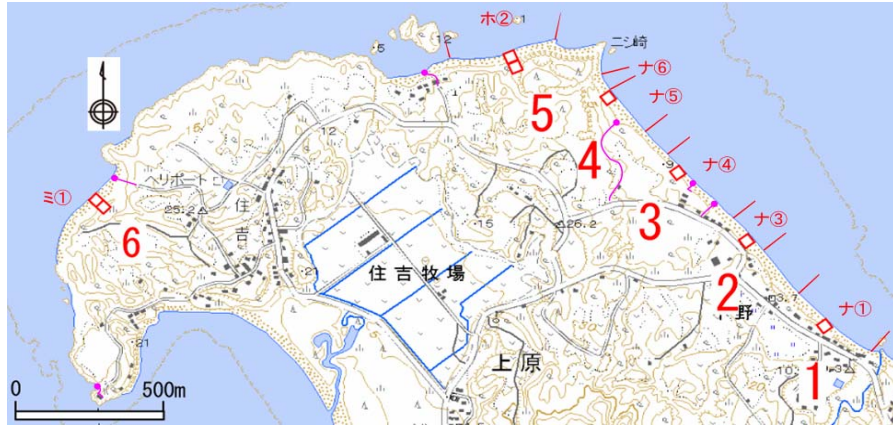


図 3.2-8 各調査回共通して回収を行った区域

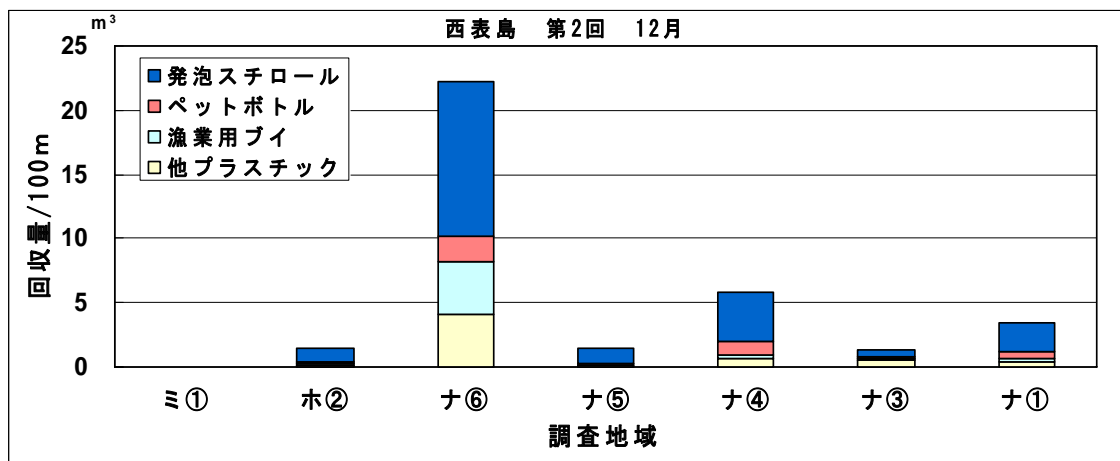


図 3.2-9 第2回調査(2007年12月)の100mあたり回収容量

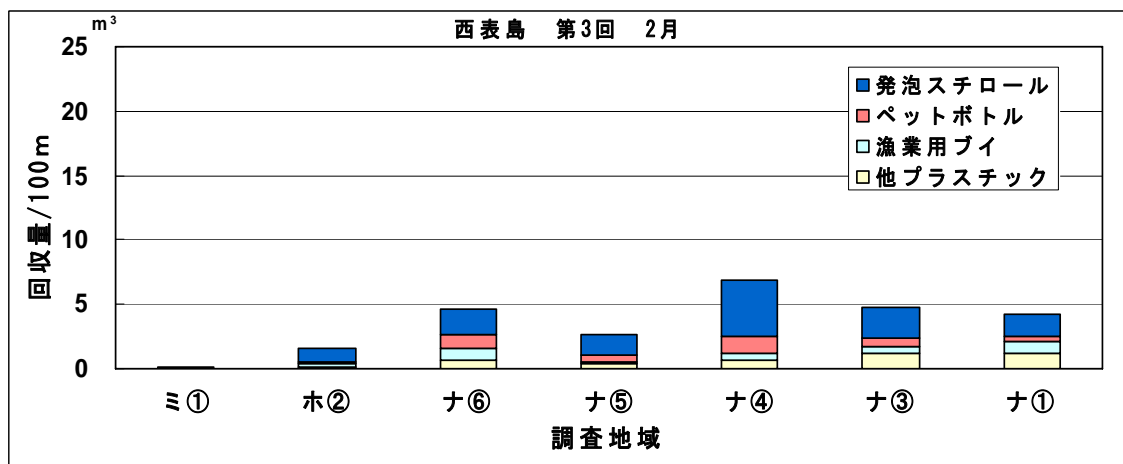


図 3.2-10 第3回調査(2008年2月)の100mあたり回収容量

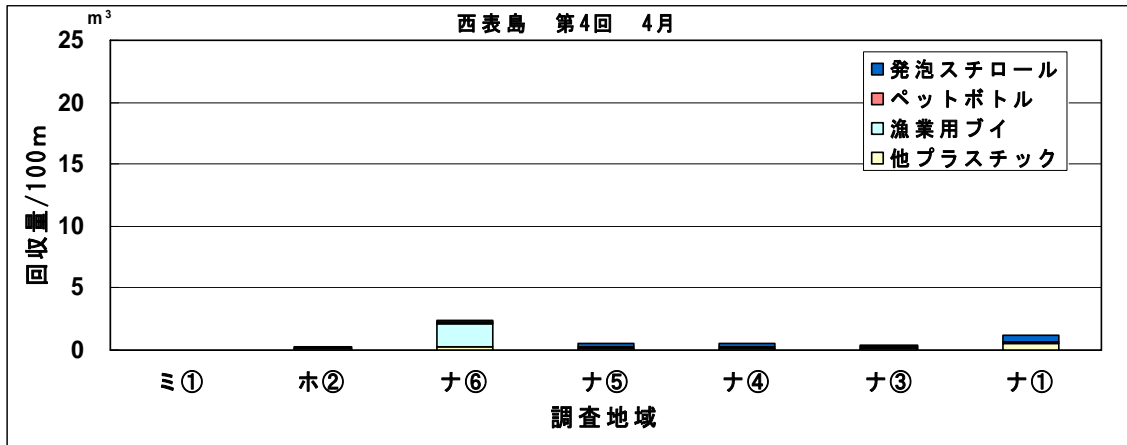


図 3.2-11 第4回調査（2008年4月）の100mあたり回収容量

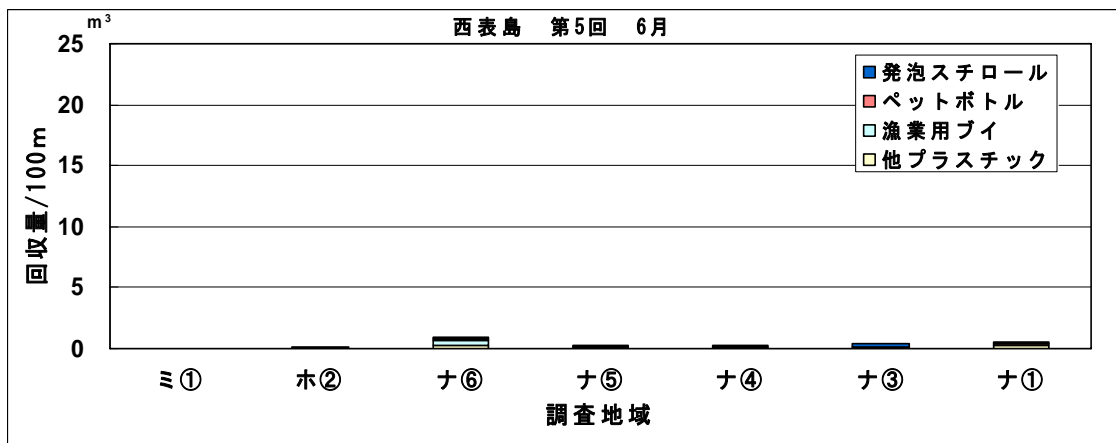


図 3.2-12 第5回調査（2008年6月）の100mあたり回収容量

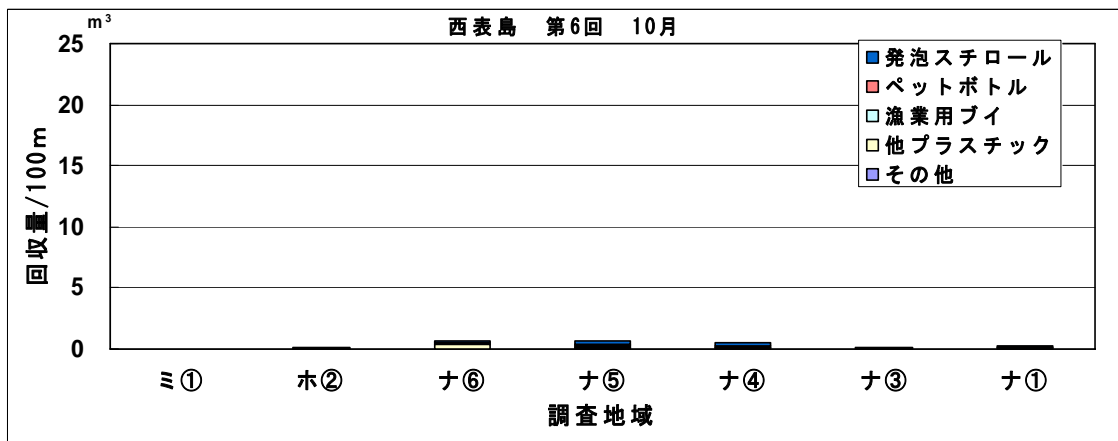


図 3.2-13 第6回調査（2008年10月）の100mあたり回収容量

d. 搬出方法

海岸からのゴミの搬出は、人力の他にリヤカー、軽トラック等を利用した。



リヤカーによる搬出



軽トラックによる搬出

e. 回収効率

独自調査における調査回毎の作業員数、回収量等を表 3.2-4 に示す。

人力による回収の効率は、第 1～6 回調査における 1 日あたりの回収量が 0.32～1.42 m³ となっており、ゴミの漂着量が多いほど回収効率が高くなる結果となった。

表 3.2-4 独自調査における回収効率

調査回数	実施年月	作業員延べ人数(人日) <a>	回収した距離(m)	回収したゴミの量(m ³) 	1人1日当り回収量(m ³) ÷<a>
1	H19.10	106	1,787	130	1.23
2	H19.12	120	2,599	171	1.42
3	H20.02	119	2,599	101	0.85
4	H20.04	56	1,660	14	0.25
5	H20.06	28	1,660	4	0.16
6	H20.10	13	1,660	4	0.32

f. 小型船舶による搬出の検証

本調査範囲の中で、ミミキリ浜近傍の海岸（共通調査枠6の北側）では、陸上からのアクセスが困難なために独自調査を実施していない。また、西表島のニシ崎周辺ではゴミ搬出のためのアクセスが悪く、独自調査時のゴミ運搬に関しては効率が悪い状況となっている。これらの海岸の漂着ゴミについては、船による海上輸送を検討した。検証調査位置図を図 3.2-14 に、検証状況を図 3.2-15 に示す。

第4回クリーンアップ調査時において、西表島のミミキリ浜北側の海岸（共通調査枠6の北側）及びニシ崎周辺を対象とし、小型船舶を使用した上陸及び漂着ゴミ運搬の可否について検証を行った。

調査日時：4月11日 8:00～9:30（潮位：135～150cm程度）

使用船舶：小型兼用船（フィッシングボート） 総トン数及び長さ：2.2トン、8.53m



図 3.2-14 西表島の検証調査位置図

検証を行った結果、ニシ崎より東側（中野海岸側）の海岸一帯では、調査時の水深が80～120cm、西側200m程度（星砂の浜側）では水深110～140cm程度であり、着岸してゴミの積み込みと運搬が可能であると判断された。一方で、ミミキリ浜北側の海岸については、周辺の水深が浅く、船舶での接近が不可能と考えられた。また、上原港からニシ崎周辺までの所要時間は15分程度であった。

これらの検証結果から、ニシ崎周辺で回収したゴミの陸地運搬と海上運搬について所要時間及びコスト面の詳細な比較を本報告書 章で実施している。



図 3.2-15 ニシ崎東側（上）の検証状況と西側（下、星砂の浜側）の様子

(2) 収集・運搬

集積場所からのゴミの運搬は、運搬業者に委託した。ゴミの種類別の運搬先は以下のとおりとした。

一般廃棄物は竹富町リサイクルセンターへ運搬した。

処理困難物及び流木は、台船により石垣港へ海上運搬し、更に石垣港から石垣島内の業者処分場へ運搬した。

医療系廃棄物や、中に入っている薬品が判明できる薬品瓶等は、石垣島へ運搬した後に運搬業者へ引き渡し、沖縄本島へ運搬した。

中身が不明の薬品ビン、農薬類、劇薬が入っている可能性のある容器等は、沖縄県八重山支庁 八重山福祉保健所 生活環境班へ連絡し、取扱いについて相談した。



運搬車両



海上運搬用の台船

(3) 処分

a. 処分方法

漂着ゴミとして回収される一般廃棄物、処理困難物、医療系廃棄物等の処分方法については、第 2 章「2.2 運搬・処分方法」を参照。

b. ゴミの有効利用

第 2 回調査(12月)において、回収した漁業用ブイの一部を地域住民が再利用している。漁業用ブイは浮き桟橋用として再利用された。再利用量は 10 個であった。

なお、この調査を通じて、八重山漁業協同組合あるいは漁業従事者からは、漁業用ブイを再利用する申し出は無かった。八重山漁業協同組合からは、八重山諸島の漁業においてはブイの需要は殆ど無いとの説明を受けている。

c. 発泡スチロールの減容化

西表島における第6回独自調査において、減容剤の一つであるSD溶剤を用いて発泡スチロールの減容化試験を実施した。

調査実施日：10月11日、14日

実施箇所：上原港（西表島）

(a) 試験方法

沖縄本島の溶剤取扱い業者よりSD溶剤100L入りドラム缶を2本導入し、クリーンアップ調査により回収された発泡スチロールの減容を試みた。

溶剤入りドラム缶2本のうち1本目は回収された発泡スチロールを選別せず無作為に減容を行った。2本目は、1本目の減容において比較的溶けやすいと判断された発泡スチロールを選別し減容を実施した。なお、試験は発泡スチロールを1m³づつ減容に要する時間を測定しながら行った。試験は、溶剤の粘度が上がり減容時間が長くなったところで終了とした。

また、減容試験を実施した3日後に、溶液の能力の変化を確かめるため、再度減容試験を実施した。



図 3.2-16 溶剤入りドラム缶と手動式ドラム缶用減容機



図 3.2-17 減容化試験の状況

(b) 試験結果

減容量と時間

試験により減容した発泡スチロール量と、減容に要した時間は以下のとおりである。

ドラム缶 2 本目では、1 本目の試験に比べて溶けやすい発泡スチロールを選択して減容したため、減容時間が短くなった。

表 3.2-5 減容試験の結果

試験条件	減容した量	減容時間 ※減容は 1 m ³ ずつ実施
ドラム缶 1 本目 無作為に減容	約 2 m ³	1 回目：約 25 分 2 回目：約 50 分
ドラム缶 2 本目 溶けやすい発泡スチロールを選 別して減容	約 3.3 m ³	1 回目：約 20 分 2 回目：約 30~40 分 3 回目：約 60 分

発泡スチロールの性状について

減容試験を行った結果、組織の荒い発泡スチロールほど減容時間が短い傾向が認められた。



図 3.2-18 減容時間が短い発泡スチロールの例

減容試験を実施後の減容能力の変化

減容試験を実施した 3 日後に、再度発泡スチロールの減容を実施したが、1 回目の試験の終了時と減容能力に変化は認められなかった。

(c) SD 溶剤の評価

減容処理能力

今回の試験では、溶剤 100 L あたりの減容量が 3m³ 程度であったことから、通常の 150 L 入りドラム缶で減容できる発泡スチロール量は 5m³ 位であると考えられる。

減容後のリサイクル

今回の試験終了後に、試験に使用した SD 溶剤をリサイクル業者へ搬出した結果、ドラム缶 1 本目、2 本目共にプラスチックへのリサイクルが可能であった。

減容に適した発泡スチロールの性状

今回の試験により、発泡スチロールの性状によって減容速度に違いがあることが明らかになった。これについては、今後関係機関や取扱い業者への聞き取り等を行い、関係する情報を収集・整理する予定である。

発泡スチロール減容によるコスト比較

SD 溶剤を使用した発泡スチロール減容化に伴う処理コストの試算を第 4 章で実施している。

(4) 回収・処理方法のまとめ

回収は全て人力で行い、回収したゴミのうち、一般廃棄物は島内の竹富町リサイクルセンターへ、処理困難物及び流木は石垣港まで海上運搬し、石垣港から運搬業者により業者処分場へ、また、医療系廃棄物も石垣港まで海上運搬し、更に運搬業者により沖縄本島へ運搬し、適正に処分した（図 3.2-19 参照）。



図 3.2-19 西表島地域における回収・運搬・処分の流れ

3.2.5 回収作業員の意識調査

(1) 回収作業員の意識調査（全国共通）

第6回クリーンアップ調査（2008年10月）終了時に、今回参加した作業員17名を対象として、「調査に参加した動機」、「参加した感想」、「参加することでの効果」、「次回参加の是非」、「多くの人が清掃活動に参加するための手段」等、参加者の意識を把握することを目的にアンケートを行った。使用したアンケート票を表3.2-6に、意識調査結果を図3.2-20～図3.2-23に示す。また、「参加した感想」及び「漂着ゴミ問題についてご意見・ご要望等」は代表的な意見を記載した。

意識調査の結果、「調査に参加した動機」としては、「海岸や街の美化への関心があるから」（13名）が最も多く、次に「有償だったから」（7名）が多かった。

「海岸清掃に参加した感想」としては、16名から回答があり、「少しずつでも取組んでいくべき」、「海外からのゴミが多い」、「ゴミが次々と漂着するためいくら回収してもきりがない」、「仕事として成り立つと若い人の仕事が増えるので良い」等の意見があった。

「参加することでの効果」として、「海岸や街の美化への関心が高まる」（17名）が最も多く、次いで「ポイ捨て防止の啓発に役立つ」（10名）が多かった。

「次回参加の是非」では、アンケート対象者17名中14名が次回も参加すると回答した。ただし、参加しないと答えた3名の理由は「状況により」、「時間に余裕があれば」という理由だったことから、参加したくないという考えではないと判断される。

「多くの人が清掃活動に参加するための手段」として、「漂着ゴミ問題の普及・啓発、小中学校での環境教育等を充実させ、漂着ゴミ問題への関心を高める。（14名）が最も多く、次いで「ゴミ袋の提供、回収したゴミの運搬・処分などの支援を充実させる」（11名）「有償とする」（10名）の順であった。

「漂着ゴミ問題についてご意見・ご要望等」では、「全島的な漂着状況の把握、アプローチの難しい場所（道がない等）での回収手法の確立」、「住民が海岸に行っても目についたゴミや危険なゴミを拾っても町や国が取り合ってくれない」、「ゴミの処理方法が問題、町に予算がない」等の意見があった。

この意識調査の結果、西表島地域において調査に参加した作業員は、参加することで美化意識が高まり、次回も参加する気持ちはある。ただ、多くの人数を集めるためには、啓発活動の充実、回収作業の有償化、運搬処分費の解決が必要であると感じていることが把握できた。

表 3.2-6 意識調査におけるアンケート票

平成20年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
クリーンアップ調査に関するアンケート（西表島）

環境省では、2007年度より日本国内の7県11海岸において海岸に漂着したゴミを調査し、その管理や対策の方法を検討しています。このアンケートは、環境省による調査の一環として、日本エヌ・ユー・エス（株）が委託を受け実施しているものです。
このアンケートでご回答いただいた内容は、この調査の目的以外には使用いたしません。

1. 調査に参加された動機は何ですか？(複数選択可)

- (ア) 海岸や街の美化への関心があるから
- (イ) 昔の海を取り戻したいから
- (ウ) 知人に誘われたから
- (エ) 広告（新聞、ラジオ）を見て知ったから
- (オ) 有償だったから
- (カ) その他()

2. 海岸清掃に参加された感想をお聞かせ下さい。

[]

3. 海岸清掃に参加することでどのような効果がある(あった)と思いますか。

(複数選択可)

- (ア) 海岸や街の美化への関心が高まる
- (イ) 自分が捨てなくなった
- (ウ) ポイ捨て防止の啓発に役立つ
- (エ) 地域への愛着が深まった
- (オ) 地域の連帯感が高まった
- (カ) 地域のイメージアップに貢献
- (キ) 団体もしくは個人の交流が深まった
- (ク) その他()

4. 次に清掃活動があれば参加しますか？

- (ア) はい
- (イ) いいえ (理由:)

5. より多くの人に清掃活動に参加してもらうにはどうすればいいと思いますか？(複数回答可)

- (ア) 活動の呼びかけを広範囲に行うなど、広報活動を充実させる
- (イ) ゴミ袋の提供、回収したゴミの運搬・処分などの支援を充実させる
- (ウ) 住民ボランティア等民間団体の育成や支援
- (エ) 漂着ゴミ問題の普及・啓発、小中学校での環境教育等を充実させ、漂着ゴミ問題への関心を高める。
- (オ) 有償とする
- (カ) その他()

6. その他、漂着ゴミ問題についてご意見・ご要望等があればお聞かせ下さい。

[]

御協力ありがとうございました。

質問 1：調査に参加された動機は何ですか？（複数選択可）

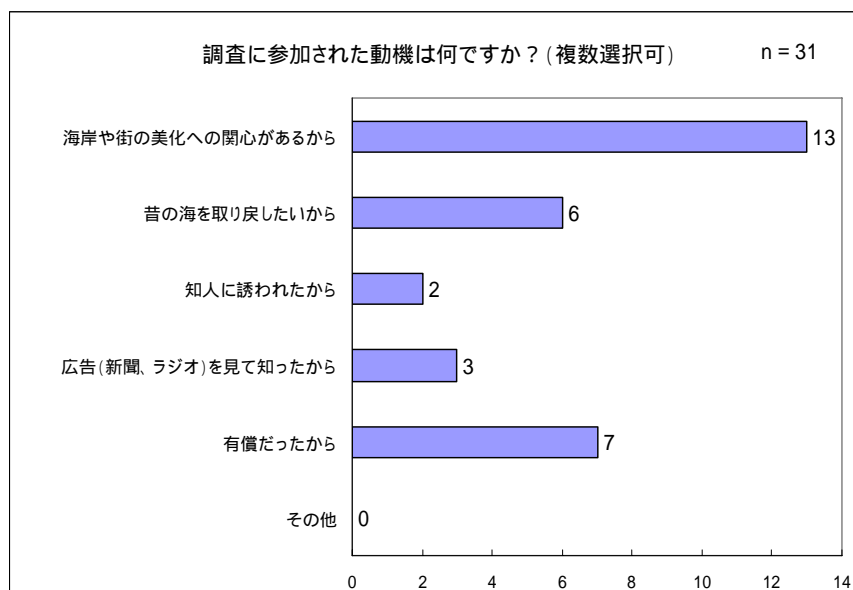


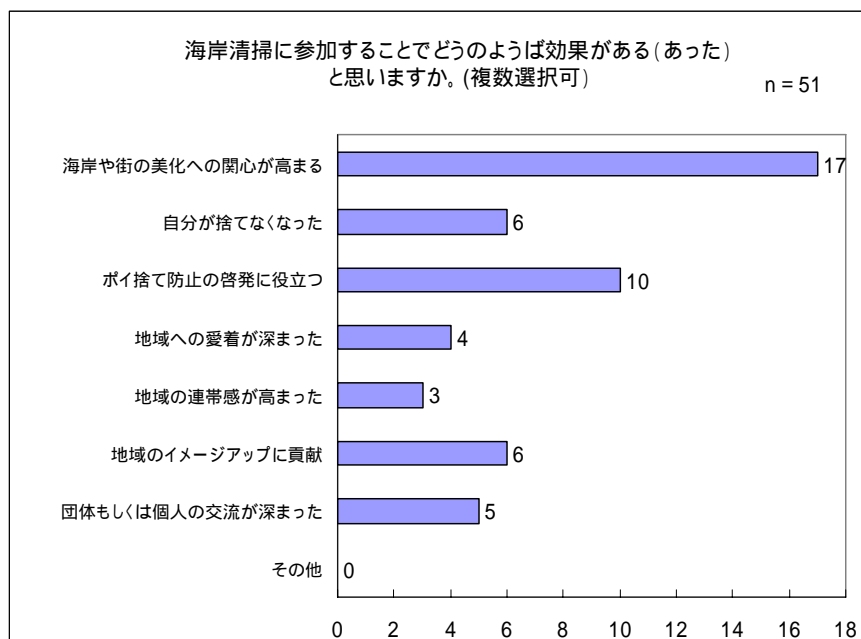
図 3.2-20 意識調査におけるアンケート結果（参加動機）

質問 2：海岸清掃に参加された感想をお聞かせ下さい。

- ・難しい問題だとは思いますが部分的には解決できることもあるように思う。できるところから少しずつ取り組んでいくようにしたい。
- ・拾っても拾っても、ゴミは次から次と流れ着く。日本だけの問題ではないと思うけれど日本国ももっと危機感を持って取り組んで欲しい。危険なゴミもとても多いのでショックです。
- ・仕事として成り立つと若い人の仕事が増えるのでよい
- ・きりの無いゴミの漂着におどろき、環境に対しての重要性を認識
- ・やってもやってもゴミが流れ着いてしまいイタチゴッコの様な気がする。一人一人がゴミを出さない様にしたい。
- ・ビーチクリーンの意識が高まった。
- ・細かいゴミがたくさんあって取るのが大変だった。終わってから、一区間でもゴミがない状態を見たら、このような活動に意義を感じた。普段からもゴミをひろってから、回収してもらえる場所がほしい。
- ・海外からのゴミが多く国内だけで呼びかけてやっていくのは難しいと思った。

16名回答のうち、代表的なものを抜粋。

質問 3 : 海岸清掃に参加することでどのような効果がある(あった)と思いますか。
(複数選択可)



※その他として「色々な知識が増えた」という意見があった。

図 3.2-21 意識調査におけるアンケート結果 (参加することでの効果)

質問 4 : 次に清掃活動があれば参加しますか？

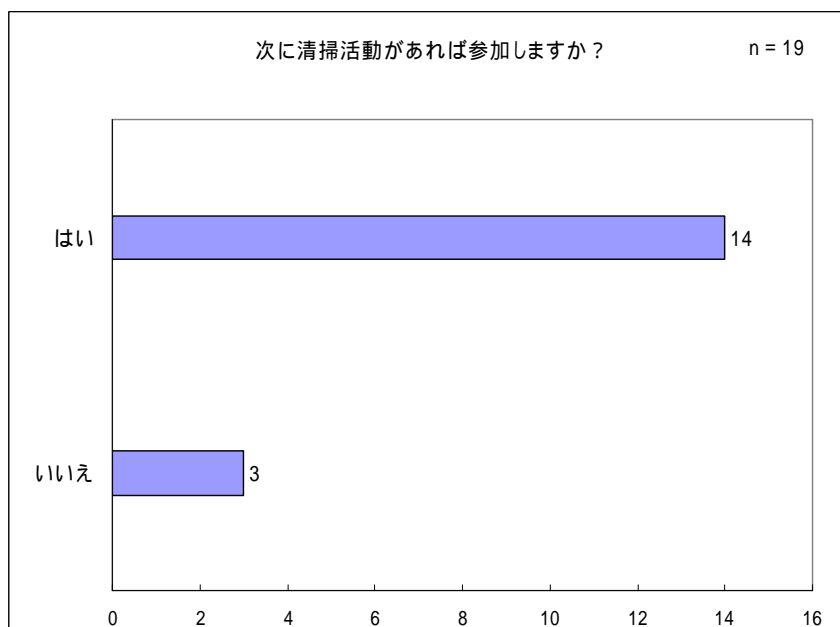


図 3.2-22 意識調査におけるアンケート結果 (次回参加の是非)

いいえ の理由 回答 3 名

- ・状況により参加
- ・時間によろうがあれば参加します
- ・時間に余裕があれば参加します

質問5：より多くの人に清掃活動に参加してもらうにはどうすればいいと思いますか？
 (複数選択可)

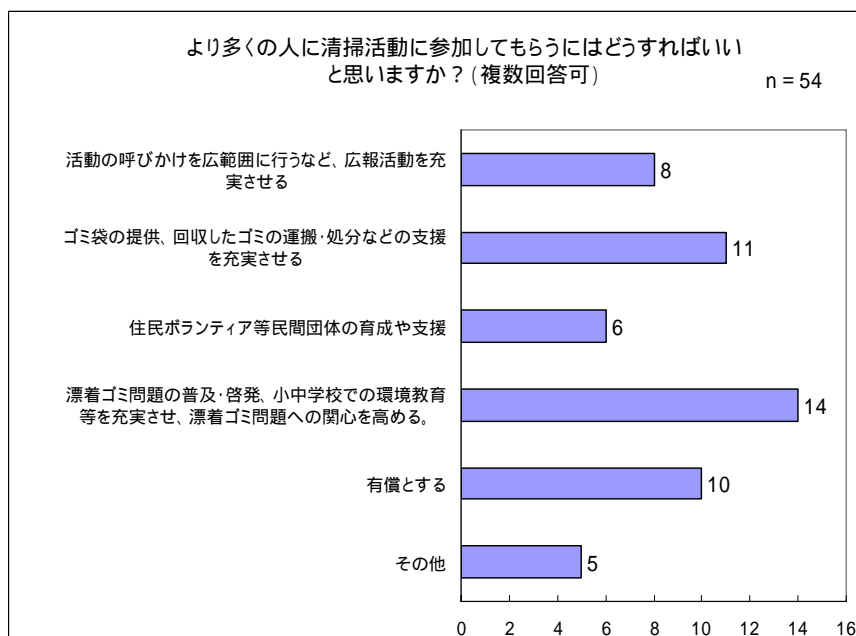


図 3.2-23 意識調査におけるアンケート結果（多くの人が清掃活動に参加するための手段）

その他 回答5名

- ・ 集落周辺はボランティア活動で行うルールづくり
- ・ 町や国がゴミ問題をもっと真剣に考えて処理システムを作ってくれないと拾う気になれないと思う。
- ・ 修学旅行の学生にやらせる環境教育の一環
- ・ ボランティアも必要です
- ・ 観光客をまき込む、参加すると船が割り引きになるとか・・・

質問6：その他、漂着ゴミ問題についてご意見・ご要望等があればお聞かせ下さい。

- ・ 全島的な漂着状況の把握、アプローチの難しい場所（道がない等）での回収手法の確立
- ・ 漂着ゴミの多い国の人達をゴミひろいに参加してもらったらどうでしょうか？
- ・ 住民が海岸に行って目についたゴミや危険なゴミを拾っても町や国が取り合ってくれない状況なので、住民のゴミに対する意識も高まりようがない。子供たちに何と説明したらよいかわからない。子供がゴミを拾おうとしても拾わないでと言えと言っているようなもの。
- ・ ゴミの処理方法が問題、町に予算がない
- ・ これからも続けることが大切と思います。
- ・ もうすこし、行政が関心を持つべき。あまりにも無関心すぎる。「環境」で生計を成り立てている以上、美化することによって責任を果たすべき。

10名回答のうち、代表的なものを抜粋。

(2) 回収作業員の意識調査（石垣島・西表島地域）

地域住民の海岸清掃に対する意識を理解するため、第4回クリーンアップ調査時において、石垣島及び西表島の作業員（地域住民）に対し、海岸清掃活動に関するアンケート調査を実施した。使用したアンケート調査票と調査結果を以下に示す。

アンケート調査票

平成19年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査（沖縄県）

第4回クリーンアップ調査に関するアンケート

（該当する選択肢1つに を付けて下さい）

1. 出身地について教えてください。

地元（石垣市及び八重山郡） 沖縄県（石垣市及び八重山郡以外） 他県から移住

2. これまでに、本業務での清掃活動に参加したことがありますか？

初めて 2～4回目

3. これまでに、本業務以外での清掃活動に参加したことがありますか？

初めて 2回目、 3～5回目、 5～10回目、 10回以上

4. 海岸への漂流・漂着ゴミ問題に関心がありますか？

とても関心がある 関心がある あまり関心がない 関心がない

5. どのくらいの頻度で海岸の漂流・漂着ゴミの清掃活動をすべきだと思いますか？

毎月 3ヶ月に一度 半年に一度 一年に一度 2年に一度

6. アルバイト代について教えてください。

A. 半日程度の清掃の場合（実労働2～3時間程度）

時給千円ならば参加する 時給500円でも参加する 無料でも参加する

B. 一日がかりの清掃の場合（実労働6～7時間程度）

時給千円ならば参加する 時給500円でも参加する 日給1000～2000円程度でも参加する
無料でもお弁当が支給されれば参加する 無料でお弁当支給が無くても参加する

7. 参加して良かったと思うこと、改善すべき点、加えて欲しい企画、あるいは自分の中で変化した意識など、自由に記載して下さい。

御協力ありがとうございました。
日本エヌ・ユー・エス株式会社

アンケート調査結果

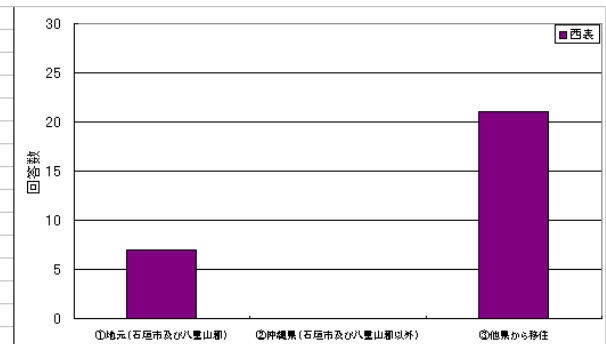
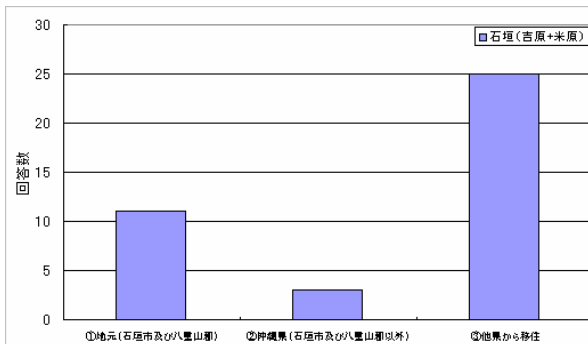
回答数 石垣島：39人 西表島：28人

1. 出身地について教えてください。

地元（石垣市及び八重山郡）

沖縄県（石垣市及び八重山郡以外）

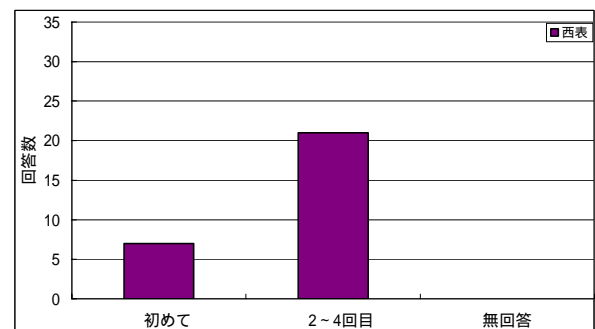
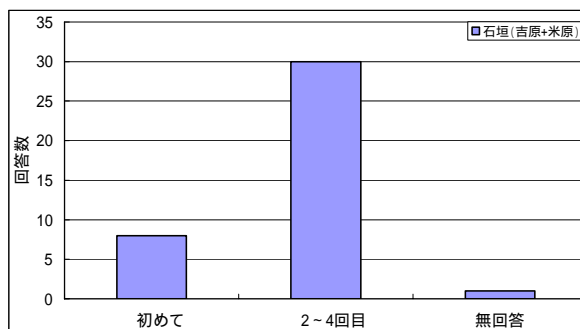
他県から移住



2. これまでに、本業務での清掃活動に参加したことが有りますか？

初めて

2～4回目



3. これまでに、本業務以外での清掃活動に参加したことが有りますか？

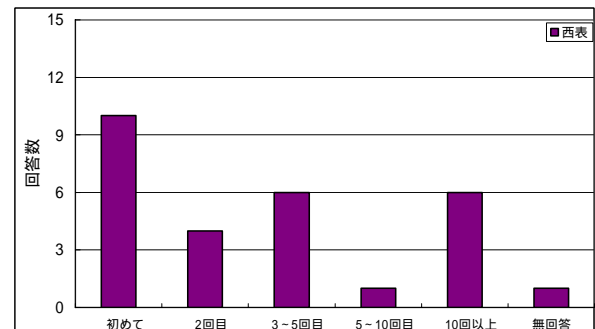
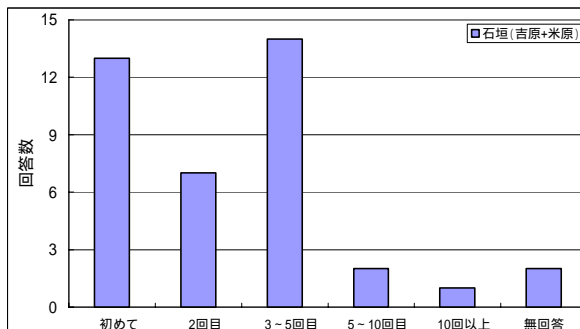
初めて

2回目、

3～5回目、

5～10回目、

10回以上



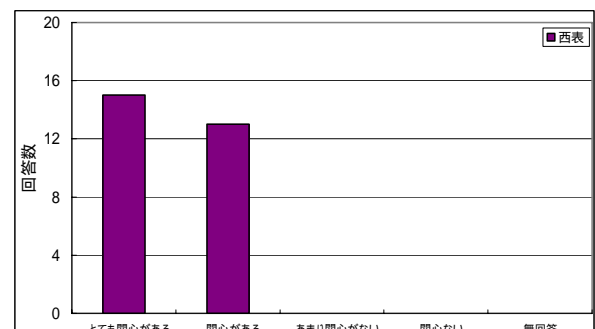
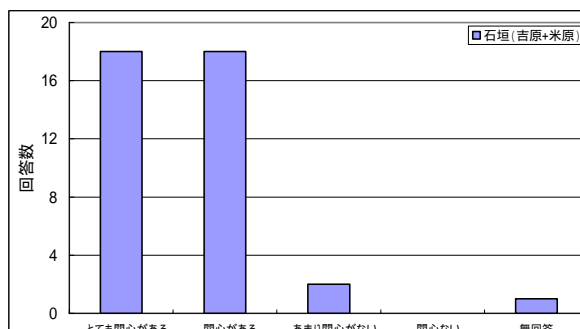
4. 海岸への漂流・漂着ゴミ問題に関心がありますか？

とても関心がある

関心がある

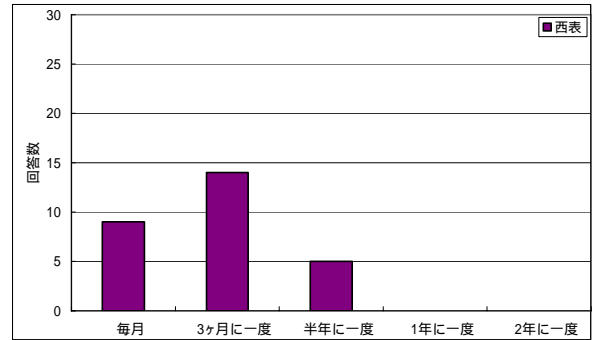
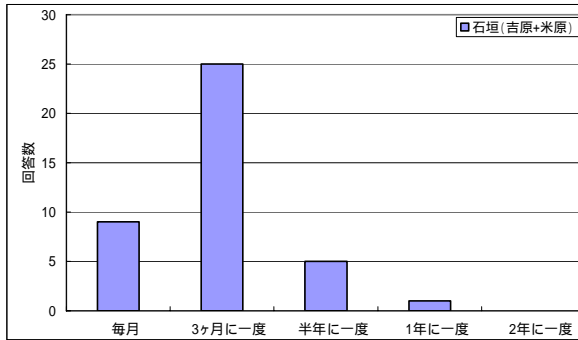
あまり関心がない

関心ない



5. どのくらいの頻度で海岸の漂流・漂着ゴミの清掃活動をすべきだと思いますか？

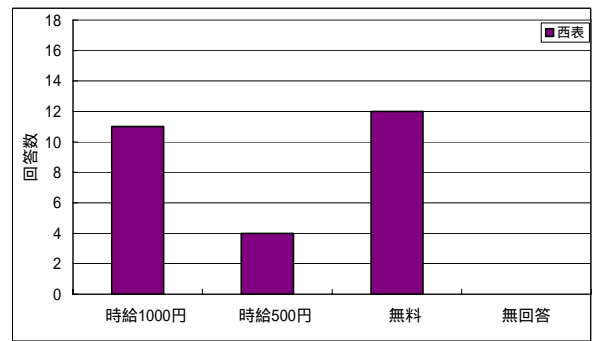
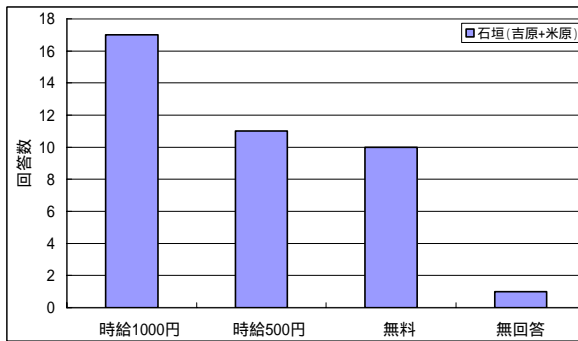
毎月 3ヶ月に一度 半年に一度 一年に一度 2年に一度



6. アルバイト代について教えてください。

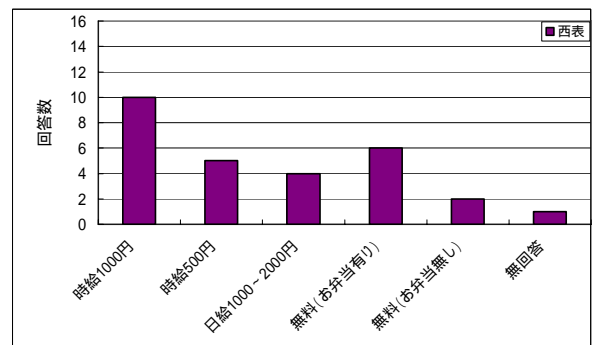
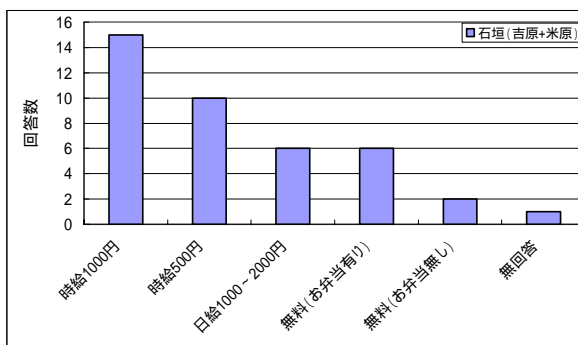
A. 半日程度の清掃の場合（実労働2～3時間程度）

時給千円ならば参加する 時給500円でも参加する 無料でも参加する



B. 一日がかりの清掃の場合（実労働6～7時間程度）

時給千円ならば参加する 時給500円でも参加する 日給1000～2000円程度でも参加する
 無料でもお弁当が支給されれば参加する 無料でお弁当支給が無くても参加する



4. フォローアップ調査

4.1 目的

本調査の位置付けは、共通調査(クリーンアップ調査)で得られたデータの解析である。ゴミの量、分布状況の経時的变化をゴミの種類ごとに解析する。また、発生源情報(文字、記号等)、時刻情報(賞味期限)を合わせて解析することで、漂着物の発生場所及び漂流時間を推定し、漂流・漂着メカニズムを検討することを目的とした。

もって、効果的、効率的な清掃時期、清掃頻度等の検討に資することを目的とした。

4.2 調査方法

4.2.1 漂着ゴミの空間分布及び時間変動の解析方法

(1) 水平方向の分布の解析

共通調査(クリーンアップ調査)で得られたコドラート枠内のゴミの種類別データを用いて、ゴミの量(個数、重量等)の空間的分布をゴミの種類ごとに把握する。また、経時的データを使用することで、ゴミの空間的分布の時間変化をゴミの種類ごとに把握し、風などの自然条件との関連性を解析することで、時間変動要因を検討した。

(2) 縦断方向の分布の解析方法

ゴミの空間分布には海岸の傾斜が関係すると想定されるため、共通調査(クリーンアップ調査)時に海岸の傾斜度を測定し、海岸の傾斜を考慮したゴミの空間分布の解析を行った。

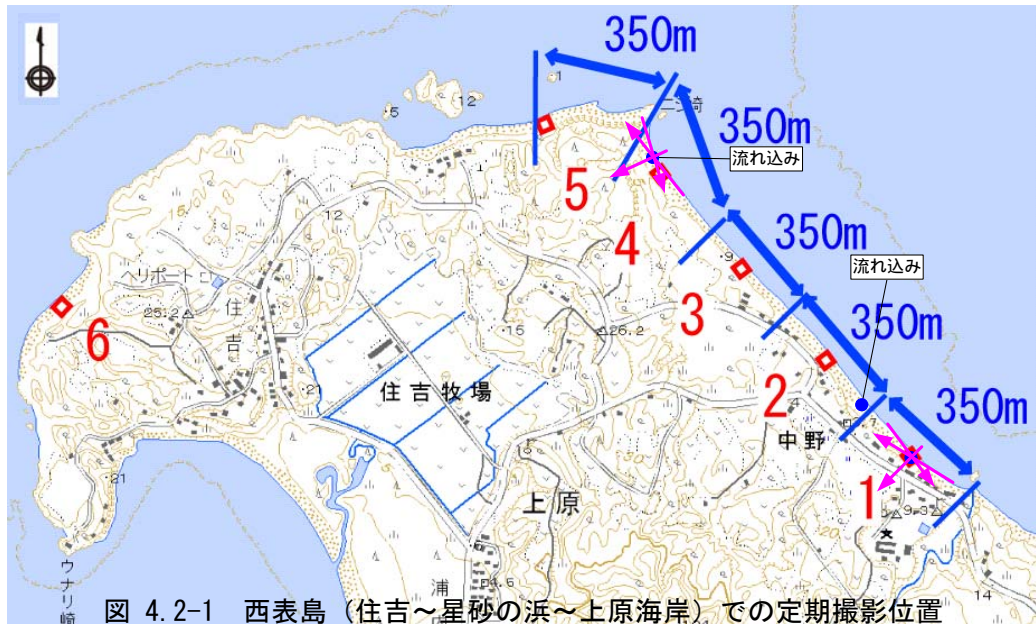
(3) 定点観測調査方法

およそ2ヶ月に一度のクリーンアップ調査を補完し、短期間のゴミの集積状況を把握するために、平成19年10月初めよりデジタルカメラで共通調査枠周辺の定点観測を行った。

デジタルカメラを用いて2地点で定点撮影を実施した。撮影要領は表4.2-1、撮影位置は図4.2-1のとおりである。

表 4.2-1 定点観測調査の撮影要領

場 所	ボランティア活動による清掃活動が行われている共通調査の調査地点1周辺及び調査地点4の北西側近傍に位置するゴミ漂着量の多い流れ込み周辺の2地点にて実施している。
定期撮影	2007年10月4日～2008年10月26日の毎週1日
撮影方法	汀線から陸側方向及び汀線沿いに左右から調査地点を撮影した。



図中のピンクの矢印は、調査地点の撮影方向。

4.2.2 発生源及び漂流・漂着メカニズムの推定方法

本調査に加え、他の既存の調査結果等も合わせて、漂流・漂着メカニズムの推定を行った。調査結果は、 章の3節にまとめて記載した。

4.3 調査結果

4.3.1 漂着ゴミの空間分布及び時間変動の解析結果

(1) 水平方向の分布の解析結果

a. 漂着ゴミの水平分布の時間変動

第1回～第6回の共通調査で取得したデータから、漂着ゴミの個数、重量、容量について、図 4.3-1 に基づいて水平分布図を作成した(図 4.3-2)。ただし、沖縄県では海藻はゴミと認識していないため、海藻を除いて表示した。また、毎回の調査結果を積算した水平分布図を図 4.3-3 に示した。水平分布図における格子の交点が、各調査枠の中心の位置を表している。横軸(汀線方向)の番号は地点番号を示しており、縦軸(内陸方向)の番号は、調査枠の個数を示している。調査枠の面積が一定ではないことから、ゴミの数量は単位面積当たりに変換して示した。

ゴミの空間分布は、海岸で一様ではなく、空間的に偏っていることがわかる。また、海岸の中でのゴミの量の多い場所は、地点1～4の中野海岸側となっている(図 4.3-2)。毎回の調査結果を精算した水平分布図をみると、その傾向が顕著に現れており、地点2を中心としてゴミが多く漂着している(図 4.3-3)。

次に、種類別(ペットボトル、飲料缶、レジ袋、ライター等)の回収量(個数或いは重量)の水平分布について、3次元の棒グラフで図 4.3-4 に示した。ここでは、海藻の分布の特徴も見ると、海藻も表示した。沖縄県は2m枠を使用しているため、4m²単位で表示した。ゴミの種類別に比較すると、同じ調査回であっても、種類によって個数の多い場所(調査枠)が異なっていることがわかる。海藻については、汀線に近い場所が多くなる傾向がある。しかしながら、海藻以外では、同じ種類であっても毎回同じ場所が多い訳ではないので、集積しやすい場所はゴミの種類だけでは特定できない。

ゴミの特性(比重など)や、各ゴミが漂着してから回収されるまで(調査時まで)に経過した時間の違いによって、このようなゴミの種類による分布の差が生じたと考えられる。

また、地点ごとに、ゴミの量の時間変化を図 4.3-5 に示した。第2・3回目でゴミの量が多かった傾向がみられ、また地点間で比較すると地点1～3で多い傾向がみられる。

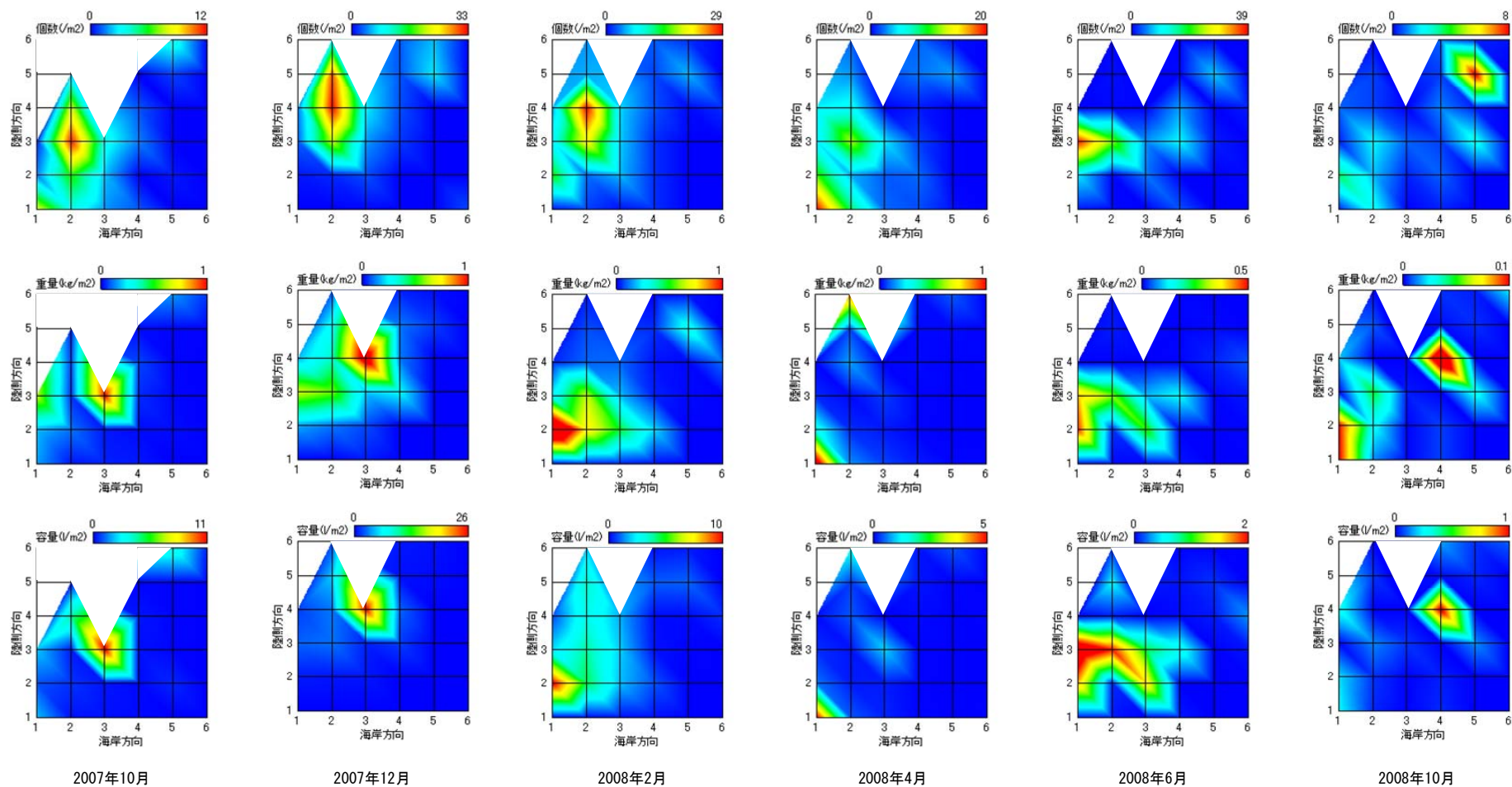


図 4.3-2 漂着ゴミの水平分布図 (各回、人工物+流木・灌木)